

おおきなねっこのきのしたで

きれいな海に囲まれた、本部港にたたくむ屋根付き利便施設。

本部町古島にある「本部富士」のガジュマルをイメージした利便施設は、

木の幹のようなたくさんの細い柱と、根元にある石灰岩を表現した、

琉球石灰岩をベンチの代わりに配置している。

晴れた日には、屋根の隙間から木漏れ日のような光が漏れ、

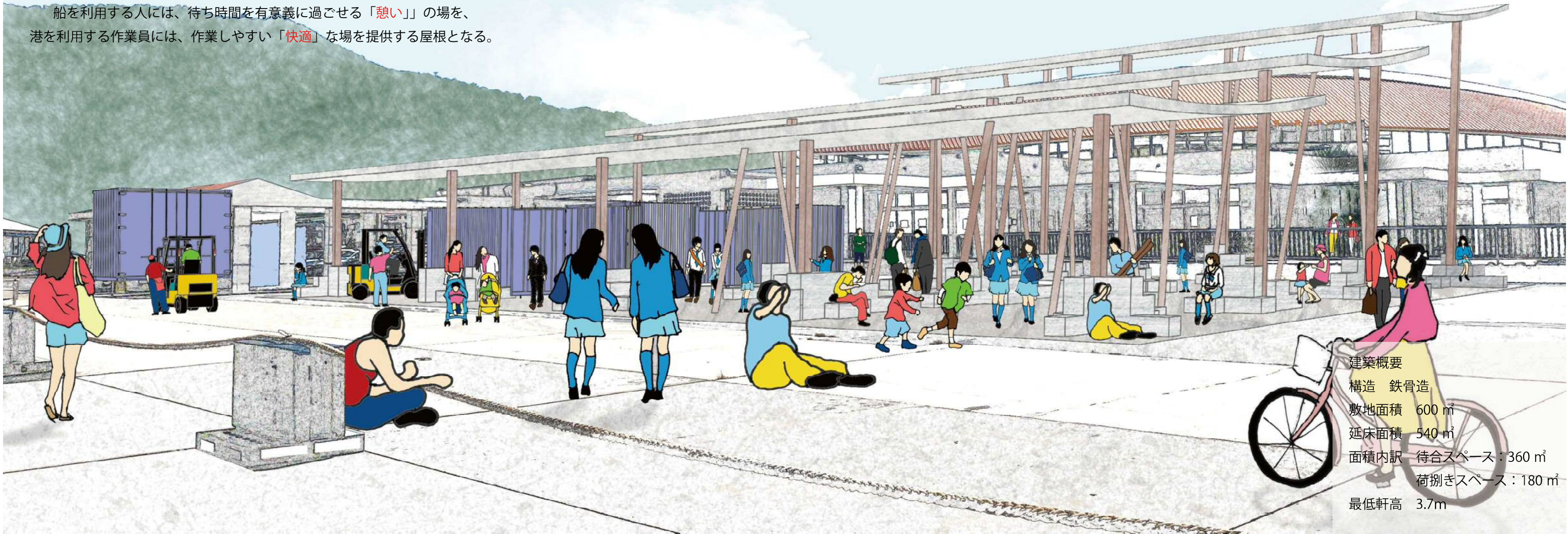
雨の日には、屋根から雨水が落ち、

伊江島からの利用者を迎え入れ、本島から送り出す「玄関口」となる。

また、修学旅行生や伊江島からの観光客など、

船を利用する人には、待ち時間を有意義に過ごせる「憩い」の場を、

港を利用する作業員には、作業しやすい「快適」な場を提供する屋根となる。



建築概要
構造 鉄骨造
敷地面積 600㎡
延床面積 540㎡
面積内訳 待合スペース：360㎡
荷捌きスペース：180㎡
最低軒高 3.7m

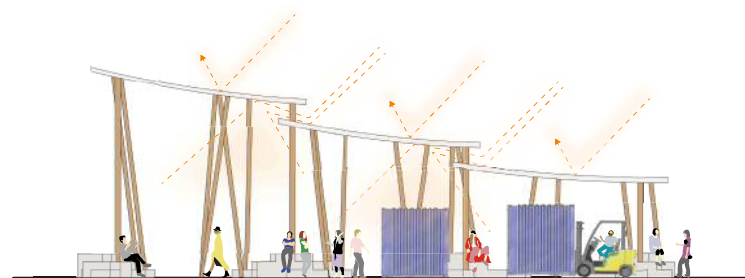
■空間コンセプト

木陰には人が集う。それは木陰空間が心地の良いものだからである。特に沖縄は日差しが強いため、影を形成している空間に人が集まりやすい。そこで本部富士のガジュマルを想起させるような空間構成とした。大きなガジュマルの下で待機するだけでなく、様々なアクティビティを楽しむことができるような心地の良い空間を目指す。



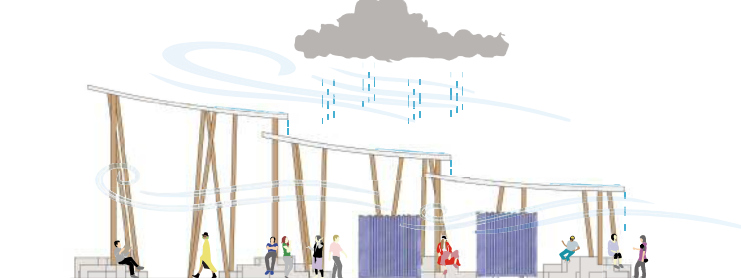
■環境計画

i. 採光計画について



大きな1枚屋根にしてしまうと屋根下の空間が暗くなる恐れがあることから、屋根レベルを変化させ3分割することにより、レベル差を作りこれを北側に配置する。これにより柔らかい光が屋根の下に落ち、荷捌きだけでなく、屋根の下に集う人たちにも心地よい空間とする。

ii 風について



港に計画することから、潮風が通り抜けるように壁を設けない計画とした。また、台風時や風が強い日を考慮し、屋根に勾配を付けて上方向に風を誘導することで、バッファゾーン的な役割を果たす。既存ターミナルの建具等の破損を抑制、防止することの役割も担う建築物となる。

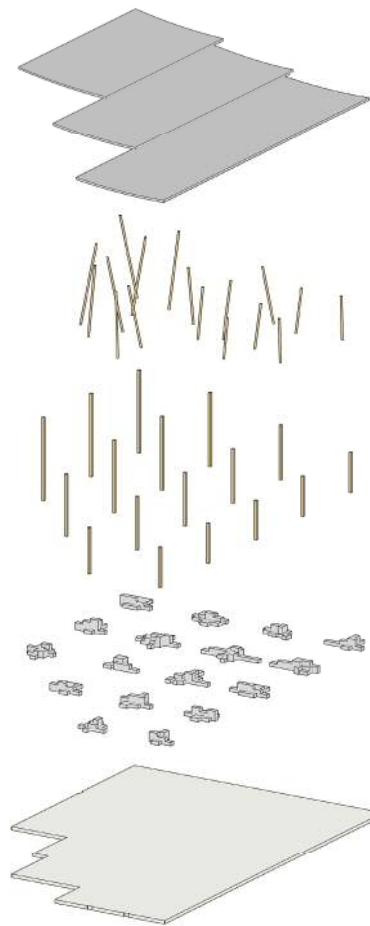
■雨天時の利用



雨天時に、水のカーテンを形成

■構造計画

本敷地が軟弱地盤であることを念頭に、できるだけ重量が軽くなるS造で計画した。また、ガジュマルの幹をイメージした斜めの柱は水平力を負担し、柱の足元の石灰岩は柱が細長いために座屈しにくさに関与する。



鉄骨梁
仕上げ: 金属パネル
防錆加工
雨を落ちやすくするために勾配屋根に曲線を設け、3つの分等屋根とすることで日差しをコントロールする。

銅管
仕上げ: 木調シート
張り
ガジュマルの幹をイメージした柱。プレースの役割を果たし、水平力を負担する。

銅管
仕上げ: 木調シート
張り
メインの柱は7m×7mを基本スパンとしており、経済的にも合理的な計画とする。

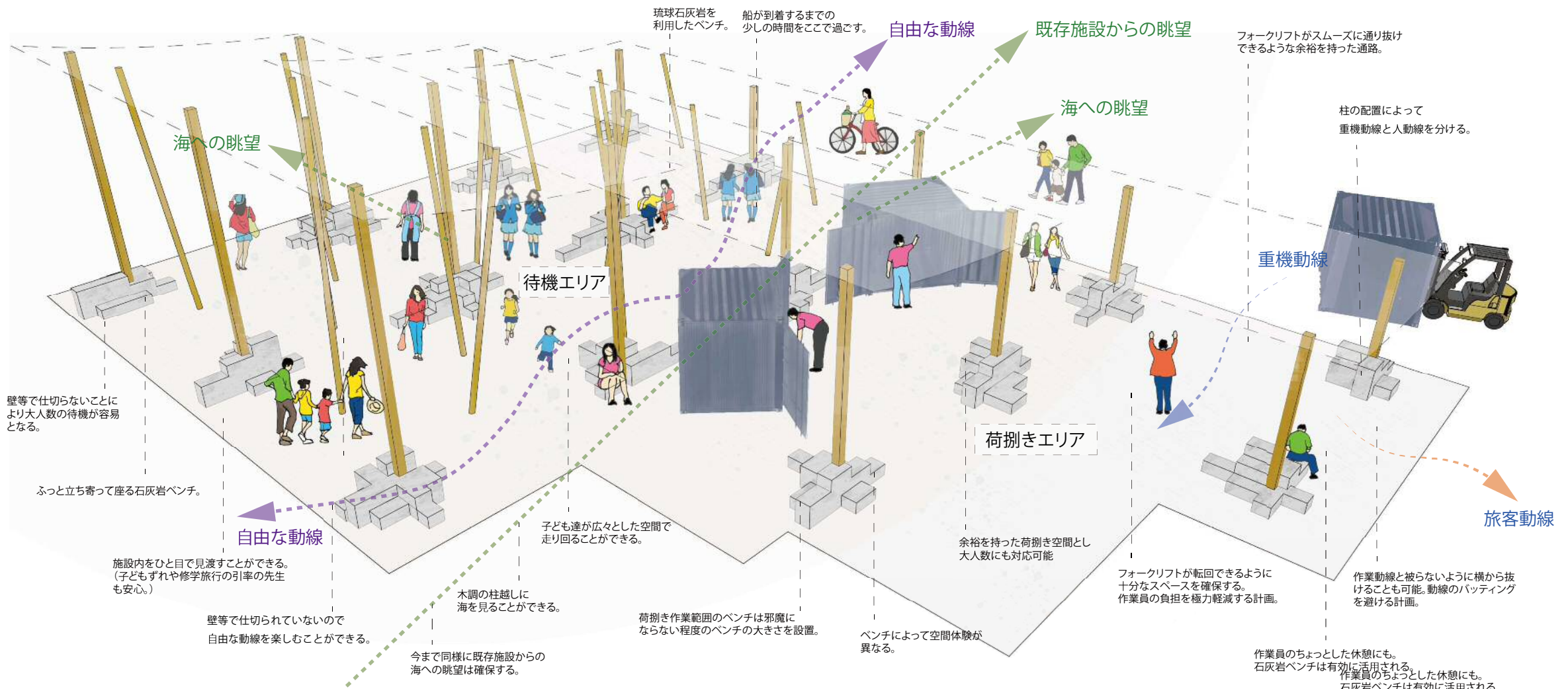
石灰岩
仕上げ: 琉球石灰岩
柱根元にある琉球石灰岩は、細長い柱の座屈長さを短くすることに寄与する。

床スラブ
仕上げ: 土間コンクリート
床スラブはすべてフラットとし、バリアフリーへ考慮する。また基礎は地盤改良を行い、布基礎とする。

構造アイソム

■平面構成計画

平面構成は、明確なゾーニングはせずに、ゆるく空間を仕切る計画とする。これにより、全体の見通しが良くなり様々なアクティビティを作り出します。



■断面パース

